

静岡県漁業協同組合連合会
1067 静岡市追手町 9-18
15.11.7 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 平成15年秋の叙勲 受章者発表される 木部正司氏 金指貢氏 宮城島二郎氏

政府は、去る11月3日「文化の日」に平成15年秋の叙勲の受章者を発表しましたが、本県漁業関係では本会並びに県信漁連が推薦した木部正司氏(前網代港漁協組合長)が組織の育成強化並びに漁協経営の安定等に尽力された功績が認められ旭日双光章に、金指貢氏(前内浦漁協組合長)が漁業の振興に寄与された功績が認められ黄綬褒章に、また、宮城島二郎氏(県水産業加工業協同組合連合会理事)が斯業の振興に寄与された功績が認められ同章の栄誉に輝きました。

また、勲章受章者の伝達式が11月10日(月)、褒章受章者の伝達式が11月13日(木)に夫々執り行われ、皇居で天皇陛下に拝謁されます。

ここに受章を衷心よりお喜び申し上げるとともに、今後の一層のご活躍をご期待申し上げます。

2. マリンバンク安心システムの運用で安全性確保

全国の漁協系統信用事業は、昨年度JFマリンバンクとしてスタートして今年度貯蓄推進目標2兆5300億円必達に向け「生き生きマリン21運動」を展開しています。

2000年度までの漁協貯蓄残高は、毎年過去最高の残高を記録するなど順調に推移してきましたが、水揚げの減少や魚価低迷など厳しい漁業経営環境や地方公共団体預金の流出などを受け、以後は2年続けて減少しています。

この減少に歯止めをかけて可能な限り上積みをするると同時に、新たなセーフティーネット(マリンバンク安全システム)運用を開始しました。

本県の10月県下漁協一斉貯蓄運動は、平成17年4月のペイオフ全面解禁に対処するため、マリンバンク安全システムの運営開始を踏まえて漁協系統貯金の安全性の訴求に重点を置き展開した結果、10月末の漁協貯金残高は1274億円と目標を25億円上回る実績を上げました。

今回の主な活動としては、漁協役職員全員が参加して、浜の全戸を訪問しマリンバンク安心システムの周知徹底を図るとともに、例年実施しているプレミアム付「ふれあい貯金」を推進しました。

この運動を今後の漁業系統信用事業の推進活動に確実に結び付けていくための運動と位置付け、これまでの取引先との取引関係をさらに強化するとともに新規開拓に取り組み事業基盤の拡大を図りたいとしています。

3. 第2回おさかな料理コンクール開催される - 県おさかな普及協議会 -

県おさかな普及協議会では、去る11月1日学校法人鈴木学園中央調理製菓専門学校において、本県に水揚げされる魚介類、海藻類を使い地元で漁獲される水産物の再認識、地産地消促進と水産物の付加価値向上を図ることを目的として「さかなが主役のお弁当」をテーマに「第2回おさかな料理コンクール」を開催しました。

県内から208作品の応募があり、書類審査を通過した10名(10作品)が実技審査に出場し、参加者は持ち時間1時間を最大限活用し、サクラエビを使って短く切ったそうめんを付けて揚げたコロッケや、アジのすり身にシイタケとニンジンを加えた蒲鉾などの個性とアイデアあふれる作品を完成し見応えのあるお弁当を仕上げました。

審査の結果、最優秀賞に朝比奈美帆(静岡市)さんの「駿河湾の休日」が輝き、その他主な入賞者は次のとおりです。

優秀賞 藤田亜紀子(静岡市) 優良賞 赤堀まゆみ(焼津市) 審査員特別賞 平岡りか(三島市)、杉山亜矢子(静岡市)、飯田真惟(浜松市)、鈴木理絵(同)

4. 平成15年サクラエビ秋漁の見通し等を発表

去る10月23、24日の両日、平成15年秋漁を前に県桜えび漁業組合主催の桜えび漁業生産技術研修会が、由比港漁協、大井川町漁協において開催され、平成15年春漁の経過、主産卵場における卵・幼生の出現状況と水温環境、さらには平成15年秋漁の見通しと現在の資源状態について、県水産試験場より説明がありました。

それによると、秋漁の漁期前調査などにより、今年の親エビ(1歳)の残存量は昨年より多いが、漁獲主体になる仔(当歳)エビの資源密度は小さく、魚体の大きさも若干小さいとしています。

ただ、通常年の産卵時期は6~8月だが、このところ4、5月にも産卵が行われているなど、産卵期間が長期化していると推測され、また資源状況などの予測は、通常年の産卵時期を土台にして資源状況などの予測をしていますが、4、5月の産卵状況も考慮しなければ、資源状態は過小評価になる可能性があります。

このようなことから、秋漁に向けての資源量は昨年と比べ悪くはないと推測され、1日あたりの漁獲にはばらつきが出るとしています。

5. 県T A C (漁獲可能量) 9月末漁獲実績を発表

県では、この程T A C対象4魚種の9月末現在の漁獲量を発表しました。

それによると、サバがT A C数量9,000トンに対し8,820トンで消化率98.0%となり、T A C数量が若干量の魚種では、マアジ1,773トン、マイワシ3,180トン、スルメイカ363トンとなりました。また、サンマの漁獲量は31トンとなりました。

6. 平成15年度養鰻研修会開催のお知らせ

静岡県養鰻協会(杉浦君和会長)では、養鰻業に関する技術の習得と知識の向上を図り、県内養鰻業者・養鰻漁業協同組合の経営維持安定と本県養鰻業の振興に資することを目的に、来る11月26日(水)13:30から浜名湖ロイヤルホテル(雄踏町)において、平成15年度養鰻研修会を次のとおり開催しますのでお知らせします。

研修：「アオサを使用した養鰻について」 県水産試験場浜名湖分場 吉川昌之氏
「生産履歴の必要性について」 県農業水産部水産資源室 鈴木邦弘氏
講演：「養鰻のトレーサビリティシステムについて」(仮題) (株)システムインテック システム開発部長 橋本民雄氏

7. 諸会議日程(11月10日(火)~11月24日(月)) - 既報分省略 -

11月19(水)~20日(木) 県JF共済推進本部 = 推進専門委員会(東京)